

授精課通信



先月のマネージメント情報のおまけに書きましたが、授精師3年目で色々と模索していた私が刺激を受けたお話を少し書きたいと思います。

～視察で出会った Alta 社の授精師～

ちょうど2年前、Alta 社が主催している農場見学 & Alta 社の取り組みを紹介するツアーと Alta 社の授精師が実際に仕事している現場の見学にアメリカ



のアイダホ州に行く機会がありました。

アイダホ州は比較的乾燥地帯で1農場

の平均飼養頭数が1,000頭規模ということもあり、アイダホで私が見てきた牧場の風景はこちらとはスケールから環境まで全く違い、圧巻されたのを覚えています。



見学したいくつかの農場は、搾乳するためのパーラーと、パドックと小さな日よけの屋根のみでした。



←乾燥地帯の為畑のあちこちにこの様な水を撒くためのサンプラーがありました。



視察で半日間、Alta 社の授精師に同行して1つの農場での仕事を見学させていただきました。

彼はこの農場の専属授精師で、その彼の仕事は、農家さんが見つ

けた発情の牛や獣医が仕掛けたプログラムの牛に授精をするだけの仕事ではありませんでした。彼のその日の仕事は、牛群内を歩きながら発情発見をし、それと同時に発情がわかりやすい様にペイントスティックでマーキングをして歩いていました。その後ピックアップした牛にどんどん無直検で授精をしていました。精液を融解する為のポットも溶かした精液を持ち運ぶためのロッド・ウォーマも私達のものと同じものを使用していました。プログラム発情でない牛に無直検で AI していくのには若干驚きましたが、牧場によっては1日に150～400頭 AI すると聞き更に驚きました。



彼以外の授精師さんとも話す機会もあったのですが、各授精師によって働き方・農場との契約が違いはするものの、発情発見と授精牛のピックアップ・発情発見の為のペイントスティックでのマーク付け・授精・妊娠鑑定など彼らの仕事を一言でいうと『担当農場の繁殖を担っている』という感じがしました。農場主は結果の把握をし、現場に関しては契約している Alta 社に任せているという、1つの形なんだなと思いました。



ただただ日常業務をこなすだけ、ただ発情に授精するだけの授精師ではダメだと思ってはいたものの、他に授精師にできることは何だろうかと模索をしていたので、彼らの担当農場の繁殖をよくするための仕事を見ていて、牛の観察が大好きで、酪農の仕事が好きな私としてはこういうアプローチでの繁殖への関わり方や農場への関わり方もあるのだなととても勉強になり、もっともっとやれることがゴロゴロあり、授精師という職業ではあるけれど、可能性は無限だなと感じ、とてもいい刺激になった視察でした。

ちらほら暑い日も増えてきましたね。暑さのせいで、なかなか受胎しなくなる前に、1頭でも多く受胎させたいと思う時期があつという間に来ました。皆さんも畑作業で忙しくなっていますが、発情発見をよろしくお願いします。

Nakanishi

授精課通信

こんにちは！授精課の大原です！最近ふと思い出したことがあります。ホルスタインの育成牛にはホルスタインより体の小さい和牛を授精し難産を回避、育成牛より大きい経産牛にはホルスタインを授精するというお話を聞いたことがありました（どこで耳にしたかは覚えてませんが…）。これを聞いたのは、私が高校二年生か三年生の時で6、7年も前の話ですので非農家の私はすっかり信じていました。

残したい育成牛に性判別精液を！

トータルハードでは、後継牛として残す育成牛に性判別精液を使うようにしています。それ以降の経産牛は性判別精液よりも受精卵移植や和牛の種を使用することが多いです。私が聞いていた話とは全然違いましたので、少し調べてみました。

例）とある農家さんの授精戦略

産歴\回数	1	2	3	4～
育成	♀	♀	♀	ETorF1
初産	♀	♀orET	ETorF1	F1
二産目	♀orET	ETorF1	F1	F1
三産目以降	ETorF1	F1	F1	F1

ほとんどの酪農家さんでも後継牛として残す育成牛に性判別精液を使用することが多いと思います。なぜでしょう？

後継牛の確保や用途を立てることのできる性判別精液を使用することが多くなってきました。性判別精液は約90%の確立で雌牛が得られます。性判別精液の量は通常精液の半分（0.5 cc→0.25 cc）、値段は1.5～2倍以上します。コスト的にも性判別精液を何本も使わないで遺伝的に優れた後継牛が欲しいですね。では育成牛と経産牛、どちらが受胎しやすいのでしょうか

ホルスタインの受胎成績

	未經産牛	経産牛
性判別精液	57.4% (544/947)	42.4% (581/1370)

上の表ではDC305で受胎率を出している何件かの農家さんの去年の4月から今年の4月までの一年間のデータをまとめたものです。育成牛の受胎率が経産

牛よりも優れていることが分かります。このことから育成牛はコスパ良く欲しい遺伝の後継牛確保に貢献してくれるのです。経産牛は産歴を重ねるにつれて分娩後の子宮の回復が遅れたり、病気にかかりやすくなったり、安定した受胎率を得ることが難しくなります。安定した後継牛の確保のキーは育成牛にあるのです。もし、育成牛にまだ和牛の授精してる！うちは後継牛が足りないかも！という方いらっしゃれば育成牛に性判別精液使用してみてもいいかもしれません。

また、ホルスタインの改良はだんだん体が小さく改良されています。さらに性判別精液は90%の確率で雌が生まれます。小さく改良が進んでいることとともに雄よりも体格の小さい雌が生まれてくるので難産になりやすいです。逆に和牛は大きくて肉質のいい和牛に改良が進み、市場では枝肉重量が増加の傾向にあります。酪農家の交雑種や和牛の個体販売が増えた今、経産牛の体で交雑種や移植による和牛を大きく生ませる方が良いかもしれませんね。

育成牛は将来の牛群を担う希望の牛たちです。生まれてから授精に至るまで待ち焦がれたことでしょう！育成牛はその農家の改良のベクトルですので、その育成牛たちに性判別精液を授精して自分好みの後継牛づくりをしてみませんか？

余談

自分の牛群の中ですごくお気に入りの牛、乳量が出る牛、共進会で賞をもらったすごい牛などがいて、その牛たちの後継牛が欲しい、だから四産目だろうが五産目だろうがこの牛は性判別精液で！という考えもありますよね。その要望が私たち授精師もこの農家さんはこういう牛が好みなんだ！という発見につながります。もしそういった要望があれば教えてください。だってそれも牛を愛していて素敵な考えだと思いますからね！

大原 珠丘